



フードバンク関西ニュース

2012年8月18日 第24号

フードバンク関西は食品関連企業から余剰食品を受け取り、支援を必要とする人達を支える非営利団体にそれらが無償提供する活動をしています。

2012年8月18日発行
認定NPO法人フードバンク関西
事務所 芦屋市呉川町1-15
TEL/FAX 0797-34-8330
e-mail foodbank05@yahoo.co.jp
URL <http://foodbankkansai.org/>

福祉施設・団体の皆様との交流会を開催

「フードバンク関西・食品の活用についての意見交換会」を、7月21日と25日の2回、芦屋市の木口記念会館で開催しました。当法人としては初めての試みであり、ボランティア全員、緊張感をもって臨みました。21日は、芦屋市、尼崎市の行政関係の2団体を含む31団体41名と当法人のボランティア19名、25日は、19団体24名と当法人のボランティア16名が集まりました。92の受取団体の中、過半数の施設・団体の方々にご参加いただき、内容のある意見交換会になりました。

今回は、食品の安全管理が気になる夏季ということもあって、第一部全体会として、(1)フードバンク関西が取り扱う食品とその取扱の説明、(2)受取団体と当法人間の食品の取扱上の約束事項の確認と事故発生時の対応のお願い、(3)食のセーフティネットへの取り組みをテーマとして、当法人のスタッフから、企業から提供される食品の提供理由、当法人の品質管理の内容、取扱注意事項等の説明をさせていただきました。7月21日には、芦屋市社会福祉協議会から里村事務局長と尼崎市市民福祉振興協会から尼崎市健康福祉局福祉課長でもある富奥課長が、食のセーフティネットについて、開始までの経緯と現状を熱く語ってくださいました。

両日ともに参加団体の方々の積極的な姿勢に助けられて、第一部の全体会を終了しました。僅か5分の休憩をはさんで、第2部のグループに分かれての意見交換会に進みました。第2部では、フードバンク関西がお届けする食品がどのように活用されているのか、困っていることを含めての要望事項などを、率直にお出しいただきました。紙面に一部を披露させていただきます。

- (1) 野菜や果物はたいへんありがたいです。特に果物は嬉しく、傷んでいる場合も、傷んだところを廃棄し、ジャムなどにして利用しています。野菜はそのものが持つ味を知ってほしいと工夫しています。
- (2) お米が何と言っても一番です。コンスタントにもらえた以前はとてもありがたかったですが、今は購入が必要となり、資金繰りもしなければなりません。
- (3) 食品の提供先へお礼状を出したいのですが、宛先はどのようにすれば知ることができるのでしょうか。



- (4) 施設利用者の各世帯への持ち帰りをさせていただくため日持ちがするものが助かります。
- (5) 初めての素材、食品の時は、使い方、調理方法も一緒に教えてもらえれば助かります。
- (6) 冷凍・冷蔵スペースが少ないのが悩みでしたが、食品を受け取るために冷凍庫を設置しました。

フードバンク関西としては、利用してくださる皆さんの笑顔や信頼に、これからも応えていきたいと、新たな決意をさせていただくよい機会になりました。「食を生かす社会作り」に向けて、手を携えて進んでいきましょう！(山田)

念願のワゴン車来る！

7月24日、ピカピカの日産キャラバンがフードバンク関西法人車輜として事務所に来ました。ここ2、3年、取扱食品量が増加し、ボランティアの自家用車では搬送できない量の食品を企業から引き取る機会が増え、1トン車位のワゴンが必要となっていました。運営費を全額寄附に依存している私達には、新車購入は夢のまた夢と諦めざるを得ないと考えていました。今年2月、実は本年度は昨年度ほど寄附が集まらず、経常運営費自体も大きな赤字決算になりそうで、藁をもすがる思いでWAM（独立行政法人福祉医療機構）の助成金を申請したところ、幸いにも採択していただくことができ、この夢が実現しました。



公的な助成金をいただくのは初めてのことで、ワゴン車の購入と本年度の事業費の確保もできて、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。たくさんの方々へのフードバンク関西へのご支援がこのような形を取って私達の背中を押して下さいていことを実感し、心から感謝しています。（浅葉）

フードバンク事業における品質管理について

先日の「意見交換会」で、時間の都合でご説明できなかった「品質管理」について述べさせていただきます。

品質管理ってどういうこと？ということをご説明する前に、まず、品質とは何かを考えてみましょう。日頃買い物をする場合、同じ価格ならより良いモノを選びたいと考えるのは自然なことです。色々と丹念に見比べたりします。一方、モノの内容よりも安ければ良い、という考え方もあるでしょう。製品やサービスを利用する場合の利用者のニーズは様々ですが、その見極めは大変重要な事柄です。日本の白物家電が新興国などの市場で苦戦していますが、これなどニーズ（顧客の要求）を見誤り、現地の消費者にとってオーバースペックで価格が高いだけのものになってしまい、シンプルな機能で使いやすく価格も手頃な韓国などの製品に負けている状況があります。ただ、日本の各メーカーともに現地でマーケティング活動に注力されている最近の事情からするとズレが修正されるのも時間の問題かも知れません。

品質とは、“顧客の要求を満たしている度合い”と定義されています。ともすれば、特に日本人は品質というモノそれ自体の機能や性能などの絶対的なことを思い勝ちですが、利用者のニーズに合っていない製品を提供しても、それがモノ自体は優れていても意味がない、言わば相対的なものというのが最近の“品質”の考え方です。

ですから、品質管理というのは利用者の思いを確認することが原点です。モノ自体の取扱が重要なのは当然ですが、それだけでは品質管理とは言えないのです。日頃提供している製品が利用者のニーズを満たしているか、ズレがないか常にモニタリングしたり、利用者へ提供側を評価していただいたりする中で、もし、不満やズレが確認された場合は提供側の活動内容を見直して修正する、そんな改善活動全体を品質管理と言います。

“経営品質”という言葉も最近よく目にするようになりました。80年代アメリカが競争力を失っていた頃、日本やドイツなどの企業を研究した結果、製品そのものの問題対応では不十分であり、それを生み出す組織のものの見方や考え方を常に見直していくことが重要、つまり、部分最適ではなく全体最適で経営を考えることが重要である、としたのです。そのようなことが“経営品質”ですが、品質という言葉の概念も大変幅広いものになっています。因みに Quality という英語を日本語では品質と訳されていますが、単に“質”でもかまわないのかも知れません。

今回、意見交換会を開きましたのも、受取団体の皆さんの期待にお応えできているか確認させていただき、不備な点があれば改善させていただくために実施したものです。今後も、このような会だけではなく、食品の受取時や後日の電話連絡でも結構です。意見をどしどしお寄せください。先頃「品質管理規定」についても定めましたが、これは全国フードバンクネットワークの会議で確認された、品質管理の実施内容を標準化して全国どこでも同じ水準で品質管理を行い、受取団体の皆さんに安心してご利用いただけるようにしていこう、とする考え方に基づくものです。今後も、他地区のフードバンクの考え方とのすり合わせも行いながら、不断の見直しを行い、フードバンク関西の“経営品質”を高めていきたいと考えています。（小島）

お米をご提供下さい

現在、フードバンク関西では深刻なお米不足になっています。先日行いました受取団体との意見交換会でも、団体の方からはお米をもらえないかとの切実なお声を多数いただきました。食生活の基本はなんと言ってもお米です。しかしながら、現在は十分な量を確保できておらず、定期的に分配していたお米は6月からは分配できないような状況になっています。

受取団体には運営の苦しいところも多く、お米の購入は非常に重い負担になっています。なんとかこの状況を解決するためにも皆様のお力を貸していただきたいのです。ご家庭、会社などでご不要になっていますお米がございましたらご寄付ください。お米は白米だけでなく、玄米、アルファ米、レトルトご飯も受け付けております。何卒ご協力の程よろしくお願いいたします。(山本)



食のセーフティネット ー芦屋市、尼崎市の福祉関連窓口と協定書締結ー

フードバンク関西は、新しい挑戦として「食のセーフティネット」を構築するために、芦屋市社会福祉協議会および尼崎市民福祉振興協会と、それぞれ平成24年7月および5月に協定書を締結しました。今の社会には、福祉の制度から漏れてしまっているために救済の手が届かず、孤独死を招いてしまっているという問題があります。ー昨年からは福祉施設や団体のみを食品の無償分配先と限定せず、緊急に支援を必要とする個人や世帯に、行政の福祉関連窓口担当者を通じて食品を提供する、地域の食のセーフティネットとしての役割を担う取り組みを始めています。しかし、その活動は、行政からの情報を得て行っているにもかかわらず、市行政に認知され、社会の仕組みとして行っているとはいえない状態でした。芦屋市、尼崎市行政との協定書締結を目指しましたが、ハードルが高かったため、フードバンク関西と市行政の実質的な窓口として芦屋市社会福祉協議会および尼崎市民福祉振興協会と試行を重ねながら関係をつくることで、協定書の交換に至りました。

芦屋市では、その都度、社会福祉協議会の担当者から要請を受けて対応しており、尼崎市では、鍵付きの保管庫を購入していただき、提供依頼に応じて入庫するようなシステムになっています。そして、事業の検証ができるように報告書をいただくことになりました。なお、食品分配の対象として、生活保護申請中の方や、求職中の方、DV被害の方など相談窓口で必要と判断された方、火事で焼け出された方などに提供されています。1回1週間分を目安に利用者が使いやすいものを提供するようにしています。期間については、状況をみながら、1ヶ月から3ヶ月、きめ細かいバックアップを目指していきます。

フードバンク関西はこれからも、行政に働きかけを行い、近隣市に食のセーフティネット効果を拡大していく予定です。(山田)

デリバリー活動を支えるボランティアスタッフの仕事

フードバンク関西では、この一年間、企業や個人から提供された約190トンの余剰食品を、デリバリーボランティアによって、90カ所を超える福祉施設・団体に届けています。前号でデリバリーボランティアの活動を紹介しましたが、今回、拡大するデリバリーを支えているボランティアスタッフの活動を紹介します。

スタッフの活動拠点は芦屋市呉川町の事務所兼倉庫です。ボランティアさんの持ち家を特別に安い家賃で借りています。普通の二階建て民家で、一階を倉庫、二階を事務所として利用しています。スタッフは、企業や個人から運び込まれる様々な食品を受け取り、目視により検品し、数量や賞味期限をチェックしています。



玄関前の駐車スペースに日除け屋根を取り付け、大型冷蔵庫2台と大型冷凍庫1台を設置して、冷蔵、冷凍品も適切な保管をして品質を維持しており、庫内温度も1日2回チェックしています。賞味期限の短いものは区別して保管し、保管中に賞味期限を越えることがないように注意を払っています。企業からの要望により配布前にバーコードを消さなければならない食品もあり、一つ一つを丁寧に消しています。これらの多種多様な食品の中から、分配先の施設や団体のニーズに合わせて、例えば、老人施設には柔らかいもの、子ども施設にはおやつ、母子施設には毎日のおかずとなる食材、ホームレスの団体にはそのまま食べられるものなど



を選んで箱詰めしています。食品の種類と数量は日々変化しているために仕分けは大変ですが、自らもデリバリーを行うベテランのボランティアが豊富な経験を基に、受取り手のことを考え、心を込めて様々な食品を詰め合わせ、デリバリーボランティアに託しています。

一方、二階の事務所では、二つ並べた机の上に3台のノートパソコンが置かれ、横にファイル棚がある部屋の中で、スタッフはフードバンク活動に必要な管理業務を行っています。毎日、企業から運び込まれ、施設や団体へ届けられる食品の入出庫管理を行っています。企業の要請に応じ、評価額付寄付食品の受領書の発行や分配先明細の報告を行っています。このように企業から提供された食品をきっちりと管理することによって企業からも信頼を得ています。92ヶ所の施設や団体に食品を隔週毎に届けており、特に野菜や果物などの生鮮食品を企業から入手したその日の内に届けることができるように、施設や団体への配達や企業への引き取りスケジュールをきめ細かく立て、ボランティアに連絡しています。デリバリー活動の拡大に伴い、ガソリン代や高速料金等の経費も増大し、スタッフはこれらの支払業務を含め、入出金管理を行っています。デリバリー経費は当法人最大の支出となっており、運営資金調達に知恵を絞らなければなりません。当法人では収益事業を行っていないため、経費はすべて賛助会員会費、寄付金、不足部分は助成金により賄っており、これらに関係した多くの業務があります。例えば、全国各地から毎日のように寄付金が寄せられており、スタッフは多くの方々のフードバンク活動への暖かい支援に感謝しながら、領収書と礼状を送るなどの仕事をしています。さらに、寄付金集めのためのイベントであるラッフルキルトや活動紹介イベントの企画・運営など、事務所スタッフの仕事は多岐にわたっています。

スタッフの仕事は月曜から土曜日の6日間、毎日3名前後のボランティアによってなされていますが、常勤職員がいないこともあってボランティア間の相互連携によって仕事を進めています。デリバリーでは、定年を迎え、多くの自由時間をボランティア活動に充てておられる男性が多いですが、スタッフでは、仕事や家事の傍らボランティア活動を行っておられる女性が多く、やはり、食に関わることの多い女性の方が破棄される余剰食品に対して「もったいない」の気持ちが強く、フードバンク活動への関心も高いようです。家の片付けより事務所の整理に力を入れているボランティアもおられ、このようなスタッフによってフードバンク活動が持続されていると言っても過言ではありません。

日本の現状に目を向けると、余剰食品のほとんどが廃棄されており、フードバンク活動で活用されている余剰食品は極一部であり、食品を受け取っている施設や団体もほんの一部に過ぎません。フードバンク活動の輪をさら広げていくために、新しいボランティアの方々のご参加をお待ちしています。(井上)



編集後記

ロンドンオリンピックは日本の史上最高のメダル獲得で無事終わりましたが、まだ不規則な睡眠状態が続いています。オリンピック開催の一週間前、イギリスのThe Guardianに、「最近、イギリスでフードバンク活動が急速に活発化しており、キャメロン首相がビッグソサエティ(大きな社会)を具現化するためにフードバンク活動を歓迎する」という記事を見つけました。「大きな社会」とはイギリスの市民社会政策の方向性を示したもので、社会政策の多くを民間非営利公益団体に委ねるという考え方を示しています。我国でも小さな政府が大きく提唱され、新しい公共の言葉が聞かれましたが、現在では危うい状況です。ところで、政局と消費税増税に明け暮れておられる我国の野田首相はフードバンクをご存知なんでしょうか？(井上)

余った食べ物を預かって、必要なところに届けます

特定非営利活動法人フードバンク関西

事務所 〒659-0051 芦屋市呉川町1-15 TEL/FAX 0797-34-8330

e-mail foodbank@yahoo.co.jp URL <http://foodbankkansai.org/>

寄付のご送金方法 郵便振替口座 00940-4-221867 口座名義 特定非営利活動法人フードバンク関西